



過去から未来へ
「空への憧れ」を育む体験型ミュージアム

2026年度

あいち航空ミュージアムは県営名古屋空港にある航空機の博物館です

1 施設概要

- 所在地：西春日井郡豊山町大字豊場（県営名古屋空港内）
- 規模：地上2階+屋上1階（幅 約90m / 奥行 約58m / 高さ 約22m）
- 開館日：2017年11月30日 2027年に10周年
- 館長：鈴木真二（東京大学名誉教授 未来ビジョン研究センター特任教授）
- 名誉館長：堤幸彦（演出家・映画監督 名古屋市出身）

2 設置目的

「航空機産業の情報発信」、「航空機産業をベースとした産業観光の強化」
「次代の航空機産業を担う人材育成の推進」を目的とした、航空機をテーマとしたミュージアムです。



ご利用案内

■ 開館時間

10時から17時まで（最終入館は16時30分）

■ 休館日

火曜日・水曜日（祝日または振替休日の場合は翌日以降の最初の平日）

※2026年6月～2027年1月末まで、リニューアル工事の為休館

ただし、エリア・期間を限定して一部開館を実施

■ 入館料

	個人	団体	学校団体
一般	1,000円	800円	—
高校・大学生	800円	640円	—
小・中学生	500円	400円	300円

■ 駐車場

・県営名古屋空港駐車場 普通自動車収容台数1,349台 100円/時間
（1時間まで無料、上限1,000円/日）

・団体バス 収容台数10台 200円/時間（1時間まで無料）

■ アクセス

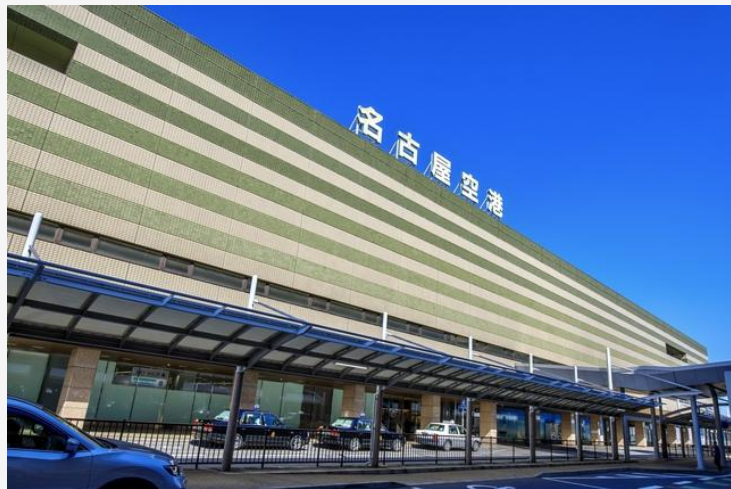


■ あおい交通 約25分 片道800円



周辺施設

■ ミュージアム周辺には、飛行場や大型商業施設があります



1

県営名古屋空港

- 年間利用者約 90万人
- 9つの都市へFDAが就航
- 1,300台以上の駐車場完備
- 空港～ミュージアム間はバス（100円※）で2分（徒歩10分）
※ミュージアム入館者へは無料券お渡し



2

エアポートウォーク名古屋

- 平日 13,000人、休日 2万～ 3万人が来店
- アピタと 135の専門店が入る大型商業施設
- ミュージアムとは 2階の連絡通路で直結

リニューアルオープン！

- 2027年にあいち航空ミュージアムは10周年を迎えます。
- これを機に、2027年1月末、新たにスペースジェット試験飛行機を展示に加え、リニューアルオープンします！

世界で唯一の展示

スペースジェット（旧MRJ）は、国産初のジェット旅客機として開発が進められ、2015年11月に県営名古屋空港で初飛行しました。

あいち航空ミュージアムには戦後初の国産旅客機であるYS-11が展示されており、スペースジェットが展示に加わることで、国産旅客機開発への挑戦の歴史を一度に見ることができ大変貴重な展示となります。

スケジュール

2026年6月～2027年1月末までリニューアル工事のため休館

（6月～10月：2階及び屋上のみ一部開館、大人300円、大高240円、中小150円）

（11月～1月末：完全休館）

2027年1月末リニューアルオープン予定



(愛知県HPより)

(YS-11)

愛知県の航空産業

愛知県を中心とする中部地域は、日本の航空機部品生産額等の約5割を占める航空宇宙産業の一大拠点であり、ボーイング機の機体構造、航空機エンジン、H3ロケットなどの開発・生産が盛んに行われている日本の航空宇宙産業の中心地です。愛知県内には、三菱重工業、川崎重工業、SUBARU、三菱重工航空エンジンの製造工場を始め、多くの関連企業が集積しています。

アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区

愛知県は岐阜県、三重県、長野県、静岡県とともに総合特別区域法に基づき国際戦略総合特区の1つである「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定されています。特区協議会構成員は規制の特例、税制上の支援、金融上の支援等の各支援メニューを活用することができます

あいち・なごやエアロスペースコンソーシアム（ANAC）

愛知県が中心となり、名古屋市始め地域の行政、支援機関、業界団体及び大学で構成する「あいち・なごやエアロスペースコンソーシアム」（ANAC）において、販路拡大、各階層における人材育成、新規参入等の支援を、地域が一体となって実施しています。

